

登録コード	L2964100		開講年度	2026			
担当教員	中島 暉			副担当			
授業科目	東洋文化事情						
英文授業名	East Asian Culture						
授業タイトル							
単位数	2	対象学生		講義期間	後期	曜日・時限	火曜・5時限
講義室	人文第5講義室		遠隔授業科目		読替科目		
信大コンピテンシー	該当						
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素				【授業の達成目標】		
	2022Lカリ, 2021Lカリ, 2020Lカリ						
	【2022年度以前加付対象】過去の英知の批判的継承のうえに 立って創造的な未来を切り拓く開拓力				多方面から中国の文化を紹介し、中国文化への理解ができる ようになります。		
	【2022年度以前加付対象】異質・多様なものを理解し、寛容 かつ多角的に判断することができる受容力				日常生活に根ざした中国の文化・価値観・習慣を知り、表面的 な印象ではなく、実際の生活から生まれる「文化の違い」を理 解することができるようになります。		
	【2022年度以前加付対象】グローバル社会において、多様な 文化を理解し、自らの文化を発信できる外国語能力				日常生活に根ざした中国の文化・価値観・習慣を知り、表面的 な印象ではなく、実際の生活から生まれる「文化の違い」を理 解することができるようになります。		
	2026Lカリ, 2025Lカリ, 2024Lカリ, 2023Lカリ						
	【2023年度以降加付対象】人文学部人文学科の学士（文学） の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力が身についている。 【思索力・受容力・批判力】				日常生活に根ざした中国の文化・価値観・習慣を知り、表面的 な印象ではなく、実際の生活から生まれる「文化の違い」を理 解することができるようになります。		
	【2023年度以降加付対象】必要な情報を的確に収集し、理解 し、発信する力が身についている。【メディアリテラシー・コ ミュニケーションリテラシー・外国語能力】				時事記事・映画鑑賞などを通して、より中国文化への理解を深 める事と同時に、日本との相違点が気づくことができるように なります。		
	【2023年度以降加付対象】専門的学力を基盤とし、持続可能 な社会を実現するための課題に取り組む力が身についている。 【開拓力・企画発想能力】				日常生活に根ざした中国の文化・価値観・習慣を知り、表面的 な印象ではなく、実際の生活から生まれる「文化の違い」を理 解することができるようになります。		
授業で学べる「テーマ」	多文化協働						
全学横断特別教育プログラム							
授業の概要	・各テーマに基づき、日常生活の衣・食・住から中国社会生活のあり方を紹介し、日本との比較も交えな がら、相互理解を深めることができるようになります。 ・各回は資料・映像などを用いて、中国文化を紹介します。その後、テーマに沿って、グループワークを 行います。 ・テーマごとに授業内容・背景などについて、確認シートや感想を書いて、提出してもらいます。						
授業計画	第1回 ガイダンス 中国の概況 第2回 中国の言語（中国語） 第3回 中国の食文化 第4回 中国の食文化 第5回 中国の住居 第6回 中国映画鑑賞 第7回 中国映画鑑賞 第8回 中国の服飾 第9回 中国のことわざ 第10回 中国の大学生生活 第11回 中国の行事 第12回 中国の就職事情 第13回 中国の世界遺産 第14回 中国の晩婚化と少子化 第15回 中国からみる日本、授業アンケートの実施 第16回 期末試験 ＊授業の進行状況によって、内容が変更することがあります。						
成績評価の方法	確認シートまたは感想：5割 期末試験：5割						
成績評価の基準	1）各テーマの内容が把握できていること 2）内容・背景を自分の見解を提示できていること 3）内容を把握できていること、自分の見解を提示できていることともに、 その背景に文化的な要素が説明できていること 4）問題に気づき、その問題にどのような課題があるのかを指摘できていること 5）文化の違いを理解していること、課題の解決法を把握できていること ・以上の1）～5）を満たしていれば「卓越している」 ・以上の1）～4）を満たしていれば「かなり上にある」						

成績評価の基準	・以上の１）～３）を満たしていれば「やや上にある」 ・以上の１）～２）を満たしていれば「水準にある」
事前事後学習の内容	・プリントを配布します。 ・必要に応じて、資料をeALPSにアップします。予習・復習をすること。 ・テーマに沿って、確認シートまたは感想を書いて、提出すること。
履修上の注意	・中国語の履修は問いません。 ・積極的にグループワークなどを参加すること。
質問、相談への対応	授業の前後に対応します。 またはメールにて対応します。 メールアドレス hui_nakajima@shinshu-u.ac.jp
教科書	教科書を使用しませんが、プリントを配布します。
参考書	必要に応じて、授業中に紹介します。